

世界インフラの民営化の現状とこれからのグローバル市場展開への課題

アサノ大成基礎エンジニアリング フェロー会員 西 満幸

まえがき

日本の建設投資はピークの 5 割程度となっている。これから我が国の人口が減少に向かうなか、建設産業が発展していくためには国内市場から海外新規市場への展開,すなわちグローバル市場への展開が必要である。しかしながら,我が国の建設産業の海外売上高比率は大手企業でも 1 割程度である。世界の建設産業はここ 10 年で海外部門の受注高を 3 割から 4 割へ拡大し,欧州の大手企業では 6 割を占めている。実に国内売上高の 1.5 倍を海外で稼いでいる状況である。

ここ数年は東日本大震災や 2020 年の東京オリンピック事業関連で建設需要は旺盛である。建設産業が比較的安定した時期に将来のグローバル展開の足固めを積極化する必要がある。

日本の産業の活性化インフラシステム輸出戦略は 2020 年に現在の 3 倍の 30 兆円を目標としており、官民連携でグローバル化を志向する必要がある。ここでは、世界の民営化投資の現状と課題について考察する。

1 世界のインフラ投資

世界のインフラ投資は現在年約 250

兆円,このうち Top225 コントラクター受注が 4 割の約 100 兆円,さらにその 4 割の約 40 兆円が海外受注である。日本

の海外受注は 1.5 兆円程度である (総務省 H25 情報通信白書,世界建設投資はボストンコンサルタントグループ推計)。

世界インフラ投資の 39%はアジア,30%が欧州である。Top225 は地域的には 10%から 25%の割合で全世界から万遍なく海外受注している。部門別では交通,石油,建設の割合が高くこの 3 部門で 70%を占める。

一方,日本の海外受注はアジア 56%,中東 21%でアジアに偏っている。

2 民営化事業

世界銀行のデータベース (PPI) から、民間資金活用の社会資本整備は 1990 年から 2012 年までに 2 兆ドル (国連統計) の投資が行われている。1990~2001 年と 2002 年~2012 年までの投資額は 2.2 倍に伸びている。唯一上下水道部門の 0.8 倍を除けば 2.2~2.4 倍の伸びである。部門別投資割合は通信 43%,電力・ガス 35%,交通 18%,上下水道 3%である。地域別は中南米 38%,東南アジアと南アジア各 18%,欧州・中央アジア 15%となっている。

表-1 年間世界インフラ投資とTop225地域別の海外受注口

	金額 (億ドル)	海外受注構成比 (%)						備考
		欧州	アジア	中東	アフリカ	北米	南米・カリブ	
世界インフラ投資	26,900	30	39	4	中東を含む	19	8	2008~2010平均
Top225海外	4,530	22	25	18	13	13	9	2011年海外受注
日本海外	188	3	56	21	6	13	1	2011年海外受注

表-2 海外受注の内訳Top225コントラクター (4530億ドル、2011年)

	交通	石油	建設	発電	工業	水	下水道・廃棄物	製造	通信	他
受注高(億ドル)	1214	1042	911	470	296	154	71	61	59	252
構成比 (%)	27	23	20	10	7	3	2	1	1	6

表-3 世界の将来インフラ市場と民営化事業実績

	電力・石油・ガス	通信	交通	水	計
世界インフラ投資額(兆円)	726	856	1,219	1,389	4,190
世界インフラ投資額 (%)	17	20	29	33	100
民営化事業 (%)	35	43	18	4	100

(注)世界のインフラ市場(2030年まで,OECD)
民営化事業 2.0兆ドル(1990~2012, UN)

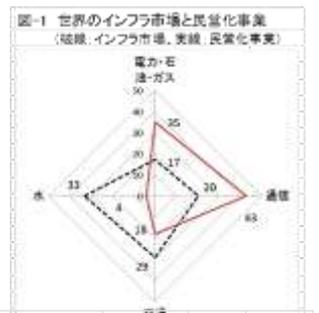


表-4 事業部門別・地域別投資額(100万\$) 1990~2012

	東南アジア・大洋州	欧州・中央アジア	中南米	中東・北アフリカ	南アジア	サブサハラ諸国	合計	合計 (%)	2002~2001
電気・天然ガス	145,246	115,818	258,955	22,776	155,042	17,297	715,133	35	2.3
通信	99,450	169,303	326,855	59,236	117,922	102,634	875,403	43	2.2
交通	83,275	24,043	153,704	7,124	84,872	13,594	366,610	18	2.4
上下水道	30,578	3,915	29,931	3,964	471	392	69,251	3	0.8
合計	358,549	313,079	769,445	93,100	358,307	133,917	2,026,397	100	2.2
構成比 (%)	18	15	38	5	18	7	100		

キーワード 民営化事業, グローバル化, PPP, PPI

連絡先 〒187-0022 東京都小平市上水本町 6-17-1 TEL 042-323-5298

次に、契約方式別投資額はグリーンフィールド (BOT 等) が 57% で一番多く、次いで民営化 24%、コンセッション 18% である。

3 交通と上下水道部門の民営化事業の特徴

世界銀行の 4 つの PPI 事業部門から交通と上下水道の特徴は下記の通りである。

(1) 交通部門の民営化事業

交通部門の投資額は最近 10 年間で 2.4 倍に伸びている。構成割合は中南米 42%、東南アジア・大洋州と南アジアが各 23% である。最近 10 年間では中南米と東南アジア・大洋州がそれぞれ 18%、12% 構成比が減少、一方南アジアは 30% 構成比が増加している。契約方式別はコンセッション方式 59%、グリーンフィールド 35% が大部分である。

(2) 上下水道部門の民営化事業

1990~2001 年と 2002 年~2012 年までの投資額は 0.8 倍である。上下水道の地域別割合は東南アジア・大洋州が 44%、中南米 43% である。最近 10 年間では中南米 9%、中東・北アフリカ 13% である。割合こそ少ないが急激に伸びている。契約方式はコンセッション 62%、グリーンフィールド 22% である。最近 10 年間ではコンセッション方式が構成割合を下げている。一方、グリーンフィールドの割合が高まっている。

世界の水道の民営化事業は 2010 年に 12%、西ヨーロッパなどの一部を除けば全般的に低い水準である。2025 年の目標は 21% である。これからは、自主財源による事業展開が進行し事業機会となると考えられる。

あとがき

建設産業を含む世界的なインフラ産業は 2002 年を境に猛烈に海外事業の展開を図ってきた。我が国のインフラ産業は縮小する国内事業から成長する海外事業中心へ転換する時期である。体力があるうちに政府の開発援助、国際金融機関関連民営化事業などの経験をさらに積み、これまでの契約上の失敗事例や事業保険などの知見を活用しながら展開を図る。日本生産性本部の新入社員調査でも 2011 年から「海外勤務のチャンスがあれば応じたい」が 50% を上回って若手も外向き志向である。米国の高度専門職向けの短期就労ビザなどの活用や 14 万人を超える外国人留学生の雇用拡大も課題である。国内で蓄えた技術力・経営力を世界のインフラ事業に生かし経営の拡大と安定を図る必要がある。

参考文献：The World Bank(Private Participation In Infrastructure Database),

総務省平成 25 年版 情報通信白書,OECD(2030 年までのインフラ世界投資)

表-5 契約方式別投資額(100万\$) 1990~2012

	コンセッション	民営化	グリーンフィールド	管理・リース	合計
電気・天然ガス	103,939	124,830	485,913	451	715,133
通信	5,604	332,983	536,811	0	875,403
交通	216,972	17,642	126,721	5,278	366,610
上下水道	42,932	9,680	15,224	1,412	69,251
合計	369,447	485,135	1,164,669	7,141	2,026,397
構成比(%)	18	24	57	0	100

表-6 交通部門投資額・構成比・伸び(%)

	投資額計(100万\$)	東南アジア・大洋州	欧州・中央アジア	中南米	南アジア	サブサハラ諸国
合計	366,610	23	7	42	23	4
~2001	106,475	38	1	55	2	3
2002~	260,135	16	9	37	32	4
2002~/~2001	2.4	1.1	21.9	1.6	33.1	4.0

表-7 交通部門契約方式別構成比(%)

	コンセッション	民営化	グリーンフィールド	管理・リース	投資額(100万\$)
合計	59	5	35	1	366,610
~2001	58	6	35	0	98,860
2002~	60	4	33	2	260,135

表-8 上下水道部門投資額・構成比(%)・伸び率

	投資額計(100万\$)	東南アジア・大洋州	欧州・中央アジア	中南米	中東・北アフリカ	南アジア	サブサハラ諸国
合計	69,251	44	6	43	6	1	1
~2001	39,175	47	3	50	0	0	0
2002~	30,076	41	9	35	13	2	1
2002~/~2001	0.8	0.7	2.0	0.5	∞	234.5	1.9

表-9 上下水道契約方式別構成比(%)

	コンセッション	民営化	グリーンフィールド	管理・リース
合計	62	14	22	2
~2001	75	14	11	0
2002~	45	13	37	4

